

令和7年度広島県特別支援学校教育研究大会実施報告

1 趣旨

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

2 日時

令和7年12月26日（金）12：45～16：15

3 会場

広島県民文化センター
(広島県広島市中区大手町1-5-3)

4 参加者

広島県特別支援学校教育研究会会員（会員数1,007名）参加369名

5 研究主題

特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」

6 研究発表

発表順	研究発表校	研究テーマ
1	広島南特別支援学校	これからの時代を生き抜く力を育てる聴覚障害教育の在り方
2	福山特別支援学校	個別最適な学びを引き出す取組について ～授業者支援会議の実施～
3	廿日市特別支援学校	育成したい資質・能力を明確にした授業づくり ～コミュニケーション能力を育み、日常生活に生かすために～
4	庄原特別支援学校	資質・能力の育成を目指した単元計画に基づく学習評価の充実 ～1学級1授業による小グループでの協議を生かして～

7 講演

演題 「令和の中でも大切にしたい特別支援教育」

講師 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
情報・支援部 総括研究員 小林 秀之 氏

8 当日の様子

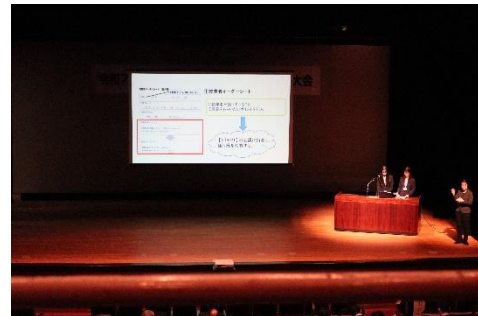
開会行事



講演



研究発表



9 アンケート結果（抜粋）

大会の運営は適切だったか

肯定的評価 100%

研究発表で参考になったこと

（広島南特別支援学校）

- 付きたい力について、どうしてその力が弱いのかという背景を考えるとところからスタートされているところが良かった。

- 振り返りシートと「客観的にとらえる力」に関わるアンケート

（福山特別支援学校）

- 授業者をサポートしながら組織全体の専門性の向上を目指す取組
- 授業者支援会議は、困り感の共有やフィードバックがしやすい環境だと思った。

（廿日市特別支援学校）

- コミュニケーション能力の育成と地域協働を関連させていること
- 授業交流会のワークシートが一目見て変容が分かる様式になっているところ

（庄原特別支援学校）

- 1 学級 1 授業の研究活動を計画的に推進されていることがよく分かる。
- 指導と評価の一体化に向けた具体的な実践

講演で参考になったこと

- ・特別支援学校の専門性の向上が急務だと言うことが分かった。
- ・特別支援教育リーフシリーズや特総研のコンテンツを活用していきたい。
- ・日々の授業実践が大切なこと、それを継承していくことが専門性につながることを実感することができ、明日からの活力になった。
- ・学校としての付加価値と共に、各校で障害種目としての専門性の発展、継承することを今一度見直すべきである。

運営について

- ・スムーズな運営で良かった。
- ・大会要項をデータ配信することで、業務のスリム化と印刷費の削減につながった。
- ・大会要項のデータで見えづらい箇所があったため工夫が必要である。
- ・各学校の発表時間が短く、質問時間がないため、意見交流の時間があったほうが良い。